

第十之圖
「梅津齒科医院」

上山市十日町二一七



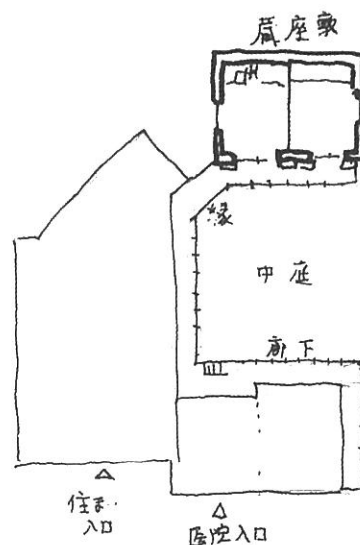
診察室の風景

出典：かみのやま 街の記憶 時のスケッチ

署：酒井 信一郎



医院側より中庭 蔵座敷を眺む



中庭を挟む配置



蔵座敷

廊下(縁)

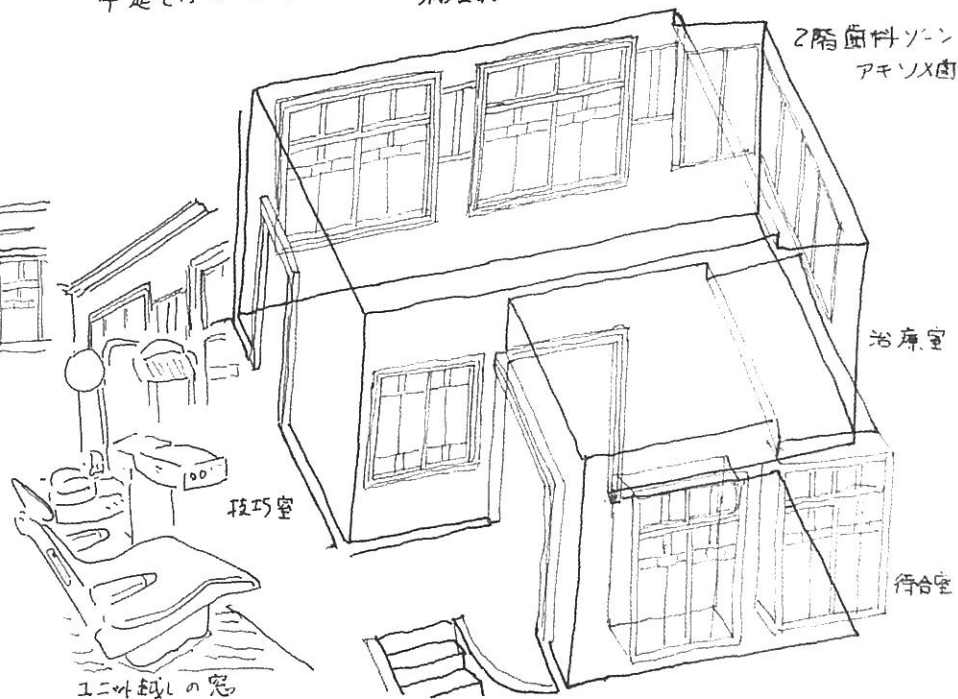


桁上に活アゴで向あきに
梁を架け、出桁で抑える
木の組手の様子



住み玄関

医院入口正面



その日、上山で講演を終えられた温井先生を囲んでの十日町
 界限の人たちとの懇親会の席に、実家に戻られたばかり梅津清
 さんが顔を出された。そして、梅津齒科医院の見学の申し出を
 快く受けて下さった。翌日、昨夜共にいた参加者数名と意欲
 満々の温井先生も加わって、朝九時に集合した。

門をくぐって正面に齒科医院玄関を構えるが、その南隣の住
 まい玄関からお邪魔した。現役の齒科医師の職を辞されたもの
 の、九十歳を超えてお元気な梅津先生に挨拶を済ませて、早速、
 中を自由に見せて頂くことにした。まず驚くのは、外からでは
 決して伺い知ることのできない、診療・住まい・蔵座敷のゾー
 ンいずれからも堪能できる庭仕事のキッチンと行き届いた和風庭
 園。中庭形式でそれをコの字に囲むように廊下があり、廊下か
 ら部屋に繋がる。廊下の掃きだしのガラス戸は戸袋にすべて収
 納でき、庭と部屋内が間仕切なしの一体の空間になるのだ。

中庭の景色を確認しながら二階の洋館仕立ての待合室、診療
 室へと向かう。部屋にそのままある診療器具や診療を受けるユ
 ニットは見てすぐにわかる程の年代もので、多分に外国製もあ
 ると思われ、人間工学的美学を感じさせる。以前にもここを見
 学している枝松さんが隣りで語る。「これは建物もいいし、齒
 科医療の博物館になるね」と。

診療ユニットの先に、大きい窓と小さい窓が交互にあり、棧
 で透明と曇りガラスを入れ分け、モスグリーンのごつい窓枠と
 の相まって、洋館の雰囲気を感じさせているが、小さな窓のス
 リットに蔵王の山並みが浮かぶと温井先生が驚いて教えてくれ
 た。二階へと上る階段の窓もそうだったが、窓越しの風景を
 見切ったような窓の配置には、ヤラレタ！。再び住まい棟へと
 向かう。東に面した二階の部屋の腰窓の戸袋を見ながら、温井
 先生が言う。「この辺は皆、板戸雨戸の戸袋ではなくては、皆、
 ガラス戸用の戸袋だね」。そう言われると今まで見てきたもの
 は全てそうだったことに気づいた。気になる建設年は、このプ
 ロポーションの良い二階建て外観からすると、他の事例を参考
 にすれば、大正末から昭和初期と考えていいであろう。

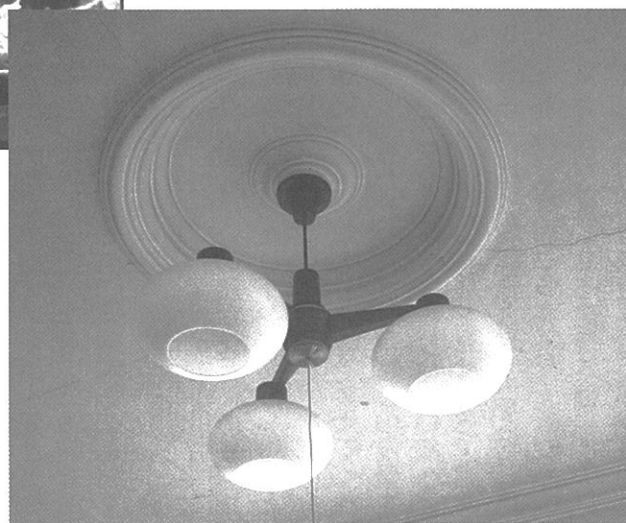
その後再び、我が建築探偵団の面々と連れだって診療部を見
 せて頂くが、その時、一階の玄関待合の壁に受付用と思われる
 小窓を見つけた。小松さんが言うには、元々ここは御殿医だっ
 たからね。ナルホド。

最後に仏間と床の間を連ねた続き間の蔵座敷を見せていただ
 くが、下屋出しの廊下に張り出した蔵の扉が二組あるのには驚
 いた。仏間、床の間各々の部屋に蔵の分厚い扉が備え付けてあ
 る。そして二階が納屋になっているが、そのような贅沢な扉をも
 つ事例には今までお目にかかったことはなかった。

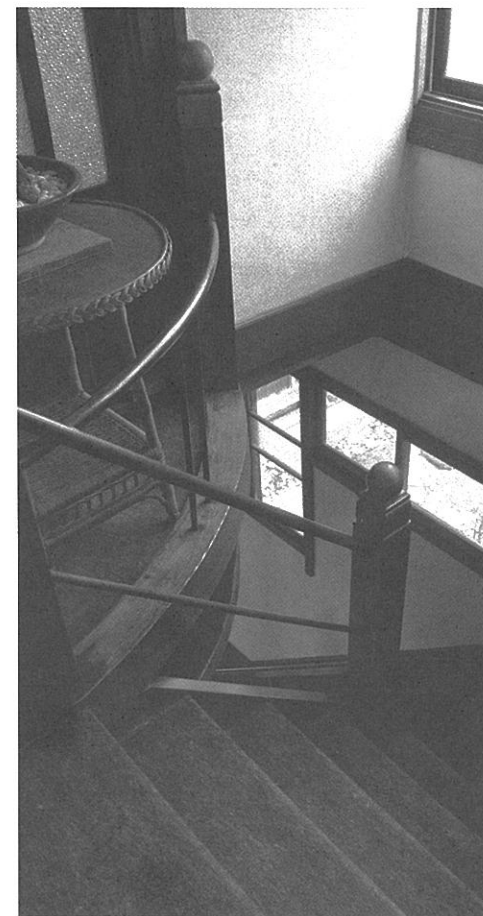
しかし、その日の建築探偵団の次の訪問先で、同じスタイル
 の蔵座敷に出会ってしまうのです。



中庭から医院の屋根を見る



天蓋照明とその周りの漆喰細工



2階ホールから階段を見る